

平成26年度短期外国出張者報告書簡

氏名 澤村 智子	所属庁・官職 盛岡地方裁判所 判事	出張先 カナダ（オタワ，モント リオール，トロント）
提出書面 平成26年10月31日付け報告書簡		
<p>キーワード欄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カナダ連邦最高裁判所訪問（マクラ克蘭長官表敬） ・ケベック州上位裁判所訪問（██████████面会） ・ケベック州控訴裁判所訪問（██████████████████面会） ・ケベック州弁護士会訪問（██████████面会） ・オンタリオ州上位裁判所（トロント）訪問（██████████████████面会） ・マギル大学訪問（██████████████████面会） ・トロント大学訪問（██████████████████，██████████████████面会） ・オンタリオ州裁判所訪問（██████████面会） 		

平成26年10月31日

最高裁判所事務総局秘書課長 殿

盛岡地方裁判所 判事 澤 村 智 子

私は、平成26年9月29日から同年10月9日までの間、鬼丸かおる最高裁判所判事に随行し、カナダのオタワ、モントリオール及びトロントに出張しました。その概要は次のとおりです。

第1 オタワ（9月29日から10月1日まで）

1 オンタリオ州上位裁判所訪問（30日午前）

オンタリオ州上位裁判所（オタワ）を訪問し、[REDACTED]及び[REDACTED]と意見交換を行った。

[REDACTED]からは、オタワの州上位裁判所の特徴として、大規模であることや、首都にあることのほか、①英語とフランス語双方での裁判に係る指定都市であること、②民事裁判の効率的処理のためのシステムを構築していることという2つの特徴があるとの説明がされた。特に②については、1997年から、新規に提起された民事事件全件を原則として調停に付し、Case Management System（弁論期日を裁判所が管理し、早期に指定するなどするもの）を導入したことにより、40パーセント程度が調停で終了し、調停が成立しない事件も処理期間が短縮されているとのことであった。

鬼丸判事からは、日本でも民事裁判の短期化や当事者の納得の獲得が課題であるとの説明がされ、両国共通の課題などについて意見交換がされた。

その後、[REDACTED]に庁舎内を案内していただき、[REDACTED]が

担当されている民事の陪審員裁判も傍聴させていただいた。

なお、[REDACTED]からは、オンタリオ州の民事訴訟規則などが掲載された「Ontario Civil Practice 2013」と「Ontario Annual Practice」の贈呈を受けた。

2 カナダ連邦最高裁判所訪問（30日午後）

鬼丸判事がカナダ連邦最高裁判所のマクラクラン長官を表敬訪問された。

(1) 最高裁判所庁舎内視察

係員の案内で、最高裁庁舎内の法廷及び審議室を見学した。法廷は非常に荘厳な雰囲気になっており、裁判官席のほか、当事者席とその後ろの意見陳述者用席、プレス席、コートクラーク用の席が設けられており、傍聴席の数はそれほど多くないようであった。審議室は、書棚に囲まれた居心地のよい雰囲気の部屋で、隣にはロッカールームもあった。ロッカー内には、正式なセレモニーの際に着用するカナダミンクでできた赤と白のローブも収納されているとのことだった。

(2) マクラクラン長官ほか3名の最高裁判事との意見交換

鬼丸判事が、カナダ連邦最高裁判所のマクラクラン長官、[REDACTED]、[REDACTED]及び[REDACTED]と意見交換を行った。

まず、マクラクラン長官が、歓迎のお言葉とともに、長官が2001年に日本の最高裁、地裁及び家裁を訪問されたときの御感想を述べられた。

続いて、予めお伝えしてあった鬼丸判事の関心事項（①司法界における男女共同参画、②多文化主義と司法、③勧告的意見）について各判事から説明があり、意見交換がされた。ロースクールの学生の過半数が女性であるが、裁判官の女性の割合は3分の1から横ばいになっていること、英米法と大陸法双方のバックグラウンドを持つ判事がいる（大陸法のケベック州出身の判事が9名中3名いる。）ことがよい刺激になっていること、勧告的意見（Reference：連邦政府が最高裁に対して、あらゆる法律問題や事実問題についての意見を求め

るもので、具体的な紛争を前提としなくてよく、実際は、憲法問題や法律の解釈問題についての意見を求められることが多い。) について、政治的問題が持ち込まれることはあるものの、最高裁は意見の拒否をすることができ、政治と司法が分離されるべきとのスタンスは守られていることなどが説明された。

3 その他

連邦最高裁判所訪問の後、隣接するカナダ連邦議会内部を係員の案内で視察した。残念ながら議事中のため議事堂内は見学することができなかったが、大火の後に建て替えられた議事堂のある建物や、大火による焼失を免れた歴史ある図書館棟を見学することができた。

また、30日夕方には、在カナダ日本国大使公邸にて、奥田紀宏特命全権大使が鬼丸判事を招いての夕食会を主催され、鬼丸判事と大使との間で、カナダの情勢や世界情勢、日本の外交や司法の課題等についての情報交換をされた。

第2 モントリオール（10月1日から同月5日まで）

1 ケベック州上位裁判所訪問（2日午前）

ケベック州上位裁判所を訪問し、 及び である と意見交換を行った。

モントリオールの裁判所は、北米の中でシカゴに次いで2番目に大きい裁判所で、裁判官数147人、毎週の来庁者数6500人に上ること、ケベック州は他の州と異なり大陸法系の法体系を持つ州であることなどが説明された。

そして、カナダで最も早くクラスアクションが導入され、大型のものが複数件係属していることや、162人が殺傷され156人が起訴された（うち23人が第一級殺人罪で起訴）大型刑事事件が係属しており、被告人を18人から30人ずつに分離して審理していること、民事事件と家事事件に裁判官によるトライアル前の調停が導入されていて、約80パーセントの事件が調停で解決されていること（裁判官による調停が行われているのは北米では珍しいとのこと）などが説明された。

続いて、[REDACTED]の案内で裁判所内を視察し、評議室、クラスアクション法廷、会議室などを見学した。クラスアクション法廷では書面や証言等が全て電子化されること、北米の他の裁判所の法廷においては当事者席が裁判官席と正対するような位置にあるのと異なり、モンリオールでは日本と同様に当事者同士が正対するような位置にあることなどが印象的だった。

なお、上位裁判所からは、Activity Reportとこれまでの裁判官のリストの冊子の贈呈を受けた。

2 ケベック州控訴裁判所長らとの昼食会及び同裁判所訪問（2日午後）

(1) ケベック州控訴裁判所長らとの昼食会

ケベック市内の裁判所近くのレストランで、ケベック州控訴裁判所の[REDACTED]主催の昼食会が開かれ、同所長及び同裁判所の[REDACTED]と鬼丸判事が昼食をとりながら意見交換をした。

[REDACTED]や[REDACTED]からは日本の制度についてさまざまな質問がされ、また、カナダやケベック州の司法制度、カナダの政治情勢や国際情勢など、話題は多岐にわたった。中でも、[REDACTED]

[REDACTED]と話されたことに関連して、鬼丸判事も38年の弁護士経験を経て最高裁判事になられたとの御経験を話され、弁護士経験を経て裁判官になることの意義等について活発な議論がされた。

(2) 控訴裁判所訪問

その後、[REDACTED]の案内で、控訴裁判所内を視察した。控訴裁判所は上位裁判所の向かいにある歴史のある建物で、カナダ連邦最高裁と同様の建築様式になっている。上位裁判所が近代的ビルであるのと対照的である。

裁判所内では、通常法廷、5人の裁判官による審理に用いられる大法廷、調停室、判事室、所長室などを見学した。控訴裁判所での調停も、当事者の申し出により裁判官の主宰で行われるもので、成立率は80パーセントとの

ことである。

3 ケベック州弁護士会訪問ほか（2日午後）

(1) ケベック州弁護士会訪問

ケベック州弁護士会を訪問し、[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]及び[REDACTED]と、ケベック州における弁護士養成制度等について意見交換を行った。ケベック州では、大学卒業後弁護士登録前に4か月間の弁護士会による教育（書面作成方法、問題解決能力など）の後、試験を行い、さらに、6か月間の見習い期間（弁護士事務所、企業、行政機関など）を経る必要があり、弁護士会をあげて養成に力を入れているとのことであった。また、ケベック州では、最近、弁護士費用の負担を嫌った本人訴訟が増えているという問題があるとの話があり、鬼丸判事が、日本でも同様の状況があると説明すると、その原因の一つとしてインターネットの普及があるのではないかなどの議論がされた。

なお、[REDACTED]からは記念品をいただいた。[REDACTED]は、10月に開催されるIBA東京大会に出席するため訪日されるとうかがっていたところ、その際、鬼丸判事を表敬訪問されたと後日うかがった。

(2) 弁護士会記者のインタビュー

弁護士会報に鬼丸判事訪問の記事を掲載したいとのことで、鬼丸判事が記者のインタビューを受けられ、ケベック州訪問の理由、訪問の感想、若者へのメッセージなどを話された。

(3) 弁護士会主催のパーティー

弁護士会近隣のホテルで弁護士会主催のパーティーが開催され、鬼丸判事、在モンリオール日本国総領事館関係者らが招待された。出席者は総勢27名ほどであり、その中には、[REDACTED]や先にお会いした[REDACTED]もいらした。鬼丸判事は、多数の法曹関係者と忌憚のない意見

交換をされていた。

4 マギル大学訪問

マギル大学の [redacted] を訪問し、主に法曹界における女性の地位について、鬼丸判事と [redacted] が意見交換をされた。マギル大学は、フランス語圏であるモンリオールにありながら英語教育を行っている大学で、ダウンタウンにほど近い山手の歴史的建造物をキャンパスとして利用している。 [redacted]

[redacted] こともあって、司法制度に非常に造詣が深い。日本の最高裁判事に女性が少ない中で鬼丸判事が任官されたことに興味を示され、その意義や、カナダにおける裁判官任命プロセス及びその問題点、女性が増えない理由などについて意見交換がされた。

5 その他

モンリオールに到着した1日夕方、在モンリオール総領事公邸にて、新井辰夫総領事が鬼丸判事を招いての現地情勢ブリーフを兼ねた夕食会を主催され、鬼丸判事と総領事との間でモンリオールの情勢等についての情報交換がされ、モンリオールにおいて日本文化が非常に注目されていることなどが説明された。

第3 オタワ（10月5日から同月8日まで）

1 トロント大学訪問（10月6日午後）

トロント大学法学部を訪問し、 [redacted]、 [redacted]、 [redacted]、 [redacted]、 [redacted] と意見交換を行った。同大学で在外研究中の金森判事補も途中まで同席した。

意見交換の内容は、カナダ及び日本の最高裁における審理の実情や課題、最高裁判事の任命手続、カナダの多文化主義の下での司法の実情、最高裁におけ

る勧告的意見など多岐にわたった。[redacted]であるところ、カナダでは、1982年憲法に先住民の権利が規定されてからも、先住民の権利とは何かなどについて議論が続いており、先住民と他のカナダ人の共存は現在でも課題であるなどの説明をされたのが印象的であった。

なお、[redacted]からは、「University of Toronto Law Journal Vol.LXIV, Number3」と法学部のリーフレットが寄贈された。

2 オンタリオ州上位裁判所訪問（10月7日午前）

オンタリオ州上位裁判所（トロント）のある建物であるOsgoode Hallを訪問し、オンタリオ州上位裁判所の[redacted]と意見交換を行った。[redacted]氏と[redacted]氏も同席された。

予め鬼丸判事が関心事項として先方にお伝えしていた事柄について、詳細なレジュメをいただき、それを参考にしながら、①オンタリオ州における裁判所の構造、②多文化主義と司法、③法廷通訳の状況等について、説明及び意見交換がされた。その中で、トロントの裁判所では、民事事件及び家事事件について、義務的な争点整理等の手続を設けているとの説明があった。これは、訴え提起後和解協議の申立てをdeputy judgeにすることが義務付けられており、当事者及び裁判所が事前準備を十分にした上で、一定の時間内で和解協議をし、和解不成立の場合には、30日以内に弁論期日指定の申立てをするか取下げをするかを決めなければならないというもので、これにより95%の事件が訴え提起から6か月ないし8か月で終了しているとのことであった。同じオンタリオ州の裁判所でも、オタワとトロントで異なる取組みをしているのが印象的であった。また、先住民族に対する刑事判決の言渡しの際、先住民の長老が参加したセレモニーを行うというもの（先例になった事件からGladue Courtと名付けられている）や、100以上の言語による通訳サービスを提供するための苦勞なども説明された。

なお、所長からは、Osgoode Hallの“An Illustrated History”と題する書籍の贈呈を受けた。

その後、係員の案内で上位裁判所内の裁判官室、図書館、法廷等を見学した。歴史のある建物だけあって、法廷は、今回訪問した裁判所の中で最も重厚な雰囲気であった。建物内には書棚で囲まれた趣のあるレストランもあり、そこで昼食をとった。

3 オマツオンタリオ州裁判所判事の表敬訪問（10月7日午後）

オンタリオ州裁判所の [] を表敬訪問した。 [] は、これまでも故野田愛子判事や横尾元最高裁判事ほか日本の多くの裁判官と交流があり、1997年には日本の最高裁を訪れていらっしゃる。意見交換の場には、同じく [] も同席された。

鬼丸判事は、 [] が取り組まれたリドレス運動（カナダにおける日系人迫害の損害賠償請求に関するもの）について敬意を表されるとともに、いわゆる治療的司法（Therapeutic Justice）について質問をされ、 [] や [] から、Drug CourtやGladue Courtなどについて説明がされた。Therapeutic Justiceの中では、Mental Health Courtが一番忙しいとのことだった。

4 その他

訪問の合間の時間を使って、トロント市議事堂などを見学した。

また、6日夕方には、在トロント総領事公邸にて、中山泰則総領事 [] が鬼丸判事を招いて夕食会を主催され、鬼丸判事と総領事 [] との間でオンタリオ州の情勢等についての情報交換がされた。総領事も鬼丸判事も、これまでの御経験が豊富で、話題に事欠かない夕食会となった。

以上